



妻西中キャラ めにしちゃん

学び磨き鍛える

正しい判断力とたくましい実践力を
もった妻沼西中生を育む学校

発行 熊谷市立妻沼西中学校
電話 048(588)1361
FAX 048(589)0496
令和7年12月24日
第23号

『荻野吟子さんのこころざし』

校長 清水 利浩



校庭の脇にあるプレート R7.12.19撮影

本校には、郷土妻沼の偉人である荻野吟子さんのプレートがあります。荻野吟子さんが、公許女医第一号となったのは、1885（明治18）年のことです。その1年前に行われた医術開業試験は、受験者数が800名を越え、荻野吟子さんを含めて5人の女性が受験しました。

吟子さんの志は、半端なく高いものでした。このことを知る資料があります。吟子さんが、この試験に臨む

にあたり、その心境と決意を『文學雑誌』という書物に記していました。

「試験を目の前にして私はとても緊張した。度重なる請願の却下と落胆の大きさにより、受験の準備に力を入れることができなかった。しかし、めぐってきたこの機会に自分がもし落第するならば、幾度にもわたる請願で驚かせてきた内務省に対して、そして、私につづく後進姉妹にも大きな影響を与えててしまうだろう。今後、女子教育が盛んになるのか、日本の女子が元気を得て活躍できるかは、私が合格するかどうかにかかっている。」

吟子さんは、自らの試験の合否が、日本の全ての女性に影響を及ぼすであろうということ見据えて深い決意を記したのです。下線を引いた「めぐってきたこの機会に自分がもし落第するならば」からの言葉からわかるように、**吟子さんは自分自身を日本の女性の先覚者と自覚して、試験に臨みました。**そして、吟子さんは、女性としてただ一人、この試験に合格したのです。

郷土妻沼の先人の志や学びに対する思いは、現在の私たちにも大いに参考になるものであると思います。今回取り上げた荻野吟子さんに関する書籍は、妻沼西中学校の図書室にも配架されています。是非、手にとってください。

<参考書籍>『熊谷市史 調査報告書 荻野吟子—その歩みと出会い』令和5年 熊谷市・熊谷市教育委員会 P127

『マンガで紹介 荻野吟子～女医のパイオニアは埼玉出身～』令和3年 埼玉県県民生活部男女共同参画課